

落花生作況調査及び需給懇談会の開催

一般財団法人全国落花生協会

全国落花生協会では、毎年、落花生の主産県において、生産、流通、加工、輸入の各部門の情報を交換し、需給の安定に資するため、作況調査と需給懇談会を開催しています。

今年は9月13日に千葉県農林総合研究センター落花生研究室のほ場視察と生産ほ場作況調査、加工施設の視察及び需給懇談会を地元行政・試験研究機関、関係団体等の協力を得て実施しました。

当日は、国、主産県行政・試験研究の担当者、生産者、産地及び消費地の加工団体関係者、輸入商社関係者等約80名が参加されました。

①作況調査の概要

午前中は、千葉県農林総合研究センター落花生研究室において、新品種の育成状況のほか、おおむね生育状況が順調であることの説明があったほか、開発を進めている乾燥装置について、展示・説明がありました。

また、千葉県八街市の蜂谷隆行氏のほ場において、作況調査を実施しました。

品種は落花生研究室で育成された新品種

「愛称：Qなっつ（品種名：千葉P114号）」で本年から販売される品種です。6月3日は種。ここ数年の輪作体系は平成27年さといも、28年落花生、29年にんじん、30年度落花生となっています。畦幅・株間は65cm×30cmで10アール当たりの株数は5,100株、7月20日にスプリンクラーによるかん水を実施したほか、病虫害防除は実施していません。この新品種の作柄はおおむね順調で、栽培しやすいとの評価でした。

そのあと、八街市で落花生製品各種の卸・小売販売をされている（有）フクヤ商店でおおまさりのレトルト加工や加工設備の設置状況を見せていただきました。

②需給懇談会の概要

引き続き、午後は需給懇談会を成田市内のホテルにおいて開催しました。農林水産省からの挨拶、協会からは輸入統計などの情報提供、続いて、茨城県、千葉県における平成30年産の生育状況、産地動向等の報告がありました。

また、千葉県からは「落花生の作付け拡大を支援する新体系機械化技術の構築と実証」の実施状況について報告があったほか、

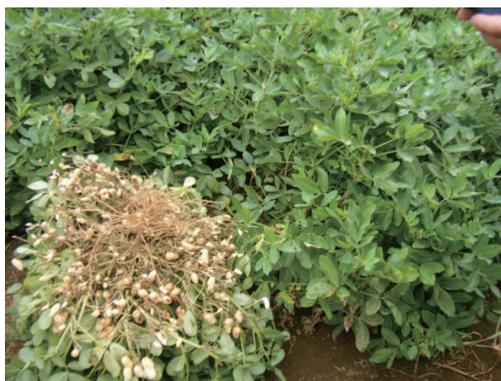
(株) NTTデータ経営研究所からは北海道で落花生栽培に取り組んでいる「TOKATCHI Grand Nuts」プロジェクトの紹介がありました。

国内需要の約9割を占める外国産落花生の状況については、落花生輸入商社協議会から中国、米国、南アフリカなどの生産状況、今年の生育状況等について説明があったほか、大粒種落花生及び小粒種落花生の需給見込み等の報告がありました。

また、(一社)日本ピーナッツ協会からは、日本の落花生市場の現況と課題、大粒落花生の需要見込みについて説明がありました。



千葉県農林総合研究センター落花生研究室



八街市ほ場作況調査 新品種：千葉P114号試し掘り